

●MASフェザー級王者の天野哲成(右・マイウェイ)は元フェザー級王者の砂田政彦(土道館シカノ)に大苦戦。4Rまでは明らかに砂田ペースだったが、5R中盤、右フックでダウンを奪って形勢逆転。もう一度ダウンを奪った末に判定勝ちを収めた



MAライト級王者になって「皮むけ」井上哲(山本)は格好良しワンビーン。チャイワット(完全クロー改め)を2分36秒、ラリアットと味の左フックでKOした。この大会のMVPか

1Rからアフメドフ(右)の重厚なパンチの前にヒンチの連続ながらも、徐々にローで挽回。判定勝負に持ち込んだ内田ノボル。ポイント的には完敗だったが、途中で気持ちが折れなかった部分では評価できる



●メインイベント/日本・ロシア国際戦/ヘビー級3分5R(第17試合)  
＜独立国家連邦タイボクシング王者＞  
○アフメドフ・ザウス(ロシア、178cm、87.0kg、23歳)  
(判定3-0)※採点=50:48、50:49、50:48  
●内田ノボル(ビクトリージム所属、184cm、91.6kg、25歳)  
CMA日本ヘビー級王者)  
※4R、内田が頭部を負傷し、ドクターチェックのため、一時中断

# 全17試合の闘いの果てに

全17試合。10・6連盟主催の興行はポリリウムタツブリだった。MAでは年に何度か同様の興行を打つが、この「食べきれないほどの量」には圧倒されてしまう。だが試合数に惑わされてはいけない。よくよく目を凝らすと、意外に。磨けば、光る玉。が多いことに気づく。魔装斗のルックスで人気が出そうな隼人、闘争本能が人一倍旺盛な東金ジャガー、通を喰らせる技術と気持ちを見せてくれた阿部泰彦やアトム山田……。個性派は枚挙にいとまがない。この日の目玉だった4名のMA

日本王者絡みのマッチメイクにも、光る逸材は潜んでいた。フライ級王者の森岡卓司を壮絶なKOで破るといふ番狂わせを演じた長瀬悟は、今後いやがうえにもタイトル戦線に絡んでくるだろう。ヘビー級王者の内田ノボルを怒濤のパンチで下したアフメドフ・ザウスは掣園道所属の23歳。その破壊的どし表現しようのないパンチ力は一見の価値があった。にもかかわらず判定決着になったのは、内田が最後まで勝負を捨てなかつたせいだろう。昨年一方的にポール・ブリックスに敗れた

頃には比べると、メンタル面で大きく成長しているような気がしてならない。久しぶりにスカットとしたKO勝利を見せてくれた井上哲や土壇場での勝負強さを見せてくれた天野哲成の試合も、それぞれ見応えがあった。おかげで想像以上に大会は盛り上がったが、残念ながら観客の入りは今ひとつ。もったいない、と思った。なぜ、この魅力がもっと一般大衆に伝わらないのか。もしかしたら連盟関係者もそう思っているかもしれない。自問自答しても、なかなか答えは出てこない。

キラリと光る個性がズラリ。なぜ、もっと注目されないのか？

文●布施鋼治



MA日本キックボクシング連盟  
ミレニアム・チャンピオン・カーニバル  
10月6日●東京・後楽園ホール



●MAフライ級王者で切れ味のあるパンチ攻撃に定評のある、森岡卓司(左・武勇堂)は長瀬悟(留志野)と激突。見応えのある打ち合いの末、長瀬の右フックによって完全にダウン。2R59秒、10カウントを聞かされた。来春早々、タイトルルマツチで再戦か？



●無敵闘士の3回戦となった隼人(右・山本)対若槻知篤(土道館)。パワフルなパンチを武器に突進してきた若槻に、隼人はヒザ取りで対抗。2Rには左ストレートでダウンを奪い、判定勝ちを収めた。これで隼人は4戦4勝(2KO)。要チェックだ

●東金ジムの外国人部隊のひとり、東金ジャガー嶋村哲昌(山本)と壮絶なロー合戦の末、3R2分5秒KO。これで来日してから、2連勝。また粗削りながらも、将来が楽しみな存在だ。トレードマークの開脚ポーズはMAの名物になるか？

